

みずしげんきこう
独立行政法人水資源機構中部支社渇水対策本部の解散について

木曾川水系及び豊川水系の流域では、1月からの降水量が例年に比べ少ない状態が続き、河川流量及び各ダムの貯水量が減少していましたが、梅雨入り以降の降雨により河川流量及び各ダムの貯水量が増加したため、当面は安定した用水の供給が可能となりました。

このため、宇連ダム等を管理する豊川用水総合事業部^{とよがわようすい}では6月18日9時に渇水対策本部を解散し、牧尾ダムを管理する愛知用水総合管理所では7月2日0時に渇水対策本部を解散するため、中部支社も7月2日0時をもって渇水対策本部を解散することになりました。

今回、渇水対策本部は解散しますが、今後の気象状況によっては河川流量や各ダムの貯水量の減少が想定されることから、引き続き、関係機関との連絡調整に努めて参ります。

水資源機構が管理する施設の貯水状況や渇水対策に関する最新情報は、水資源機構ホームページにてご覧いただけます。

<http://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html>



令和元年7月1日

独立行政法人水資源機構 中部支社

発表記者クラブ

中部地方整備局記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 中部支社 総務課長 ^{だん}段
住 所：愛知県名古屋市中区三の丸1-2-1
電 話：052(231)7541(代)

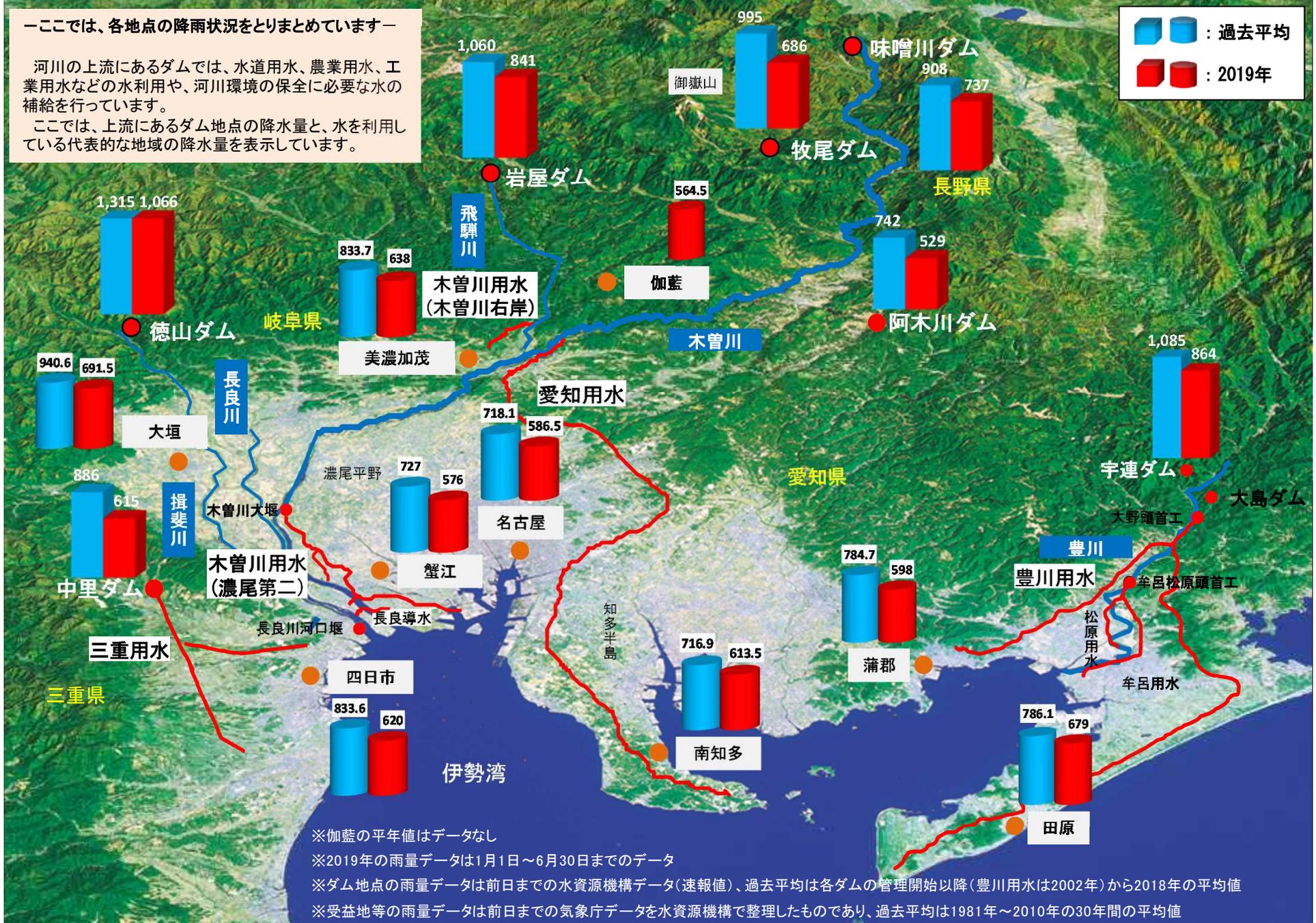
木曽川・豊川水系の降雨状況(1月～6月合計値)

2019年7月1日(月)

—ここでは、各地点の降雨状況ととりまとめています—

河川の上流にあるダムでは、水道用水、農業用水、工業用水などの水利用や、河川環境の保全に必要な水の補給を行っています。

ここでは、上流にあるダム地点の降水量と、水を利用している代表的な地域の降水量を表示しています。



※伽藍の平年値はデータなし

※2019年の雨量データは1月1日～6月30日までのデータ

※ダム地点の雨量データは前日までの水資源機構データ(速報値)、過去平均は各ダムの管理開始以降(豊川用水は2002年)から2018年の平均値

※受益地等の雨量データは前日までの気象庁データを水資源機構で整理したものであり、過去平均は1981年～2010年の30年間の平均値

